



2026年度 第1四半期
決算説明資料

 **三菱ガス化学株式会社**
2026年8月7日

証券コード
4182



本日の決算説明のポイント



1. 2026年度 第1四半期実績

前年度比

売上高	2,237億円	+ 457億円
営業利益	278億円	+ 168億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	183億円	+ 99億円

売上高	● メタノール、ポリカーボネート(PC) 等での市況上昇及び 原材料コスト増の価格転嫁 ● BT材料の販売数量増 ● 円安影響
営業利益	● 上記に加え、メタノール、PC等での在庫受払差等による 損益改善

2. 2026年度 通期業績予想

前回予想比

売上高	8,600億円	+ 200億円
営業利益	710億円	+ 120億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	550億円	+ 90億円

売上高/ 営業利益	第1四半期で生じた増収増益が、通期予想においても一 定程度確保できる見通し
配当方針	年間配当予定 110円 (中間55円、期末55円) * 前回予想から変更なし。2025年度比年間10円の増配を予定

中東情勢緊迫化による影響:

- メタノールのサウジアラビア拠点を除き、当社グループでの生産・販売への影響は軽微
- 原燃料価格上昇により化学品を中心に製造コストは上昇も、価格転嫁で対応
- 第1四半期では顧客の要請に対するタイムリーな供給や、在庫受払差等の影響による損益改善効果も生じた

※ 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。



©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 2

まず本日の決算発表のポイントについてご説明いたします。

1点目の2026年度第1四半期 実績につきましては、中東情勢影響によるメタノール、ポリカーボネート(PC) 等での市況上昇及び原材料コスト増の価格転嫁、BT材料の販売数量増のほか、市況上昇に伴う在庫受払差等による損益改善もあり増収増益となりました。

2点目の 2026年度 通期予想につきましては、第1四半期で生じた増収増益が、通期予想においても一定程度確保できる見通しであり、前回予想より上方修正をしております。

なお、2026年度の年間配当は、前回予想より変更はなく、前年度比10円増配の110円を予定しております。

- メタノールのサウジアラビア拠点を除き、当社グループでの生産・販売において特段の影響は生じていない
- 原燃料価格の上昇により基礎化学品、エンジニアリングプラスチックスを中心に製造コストは上昇
- 販売価格への転嫁を進めた結果、現時点での採算悪化は一部で限定的。一方、顧客の要請に対しタイムリーな供給が出来たことや在庫受払差等の影響により、損益が改善。第1四半期が増収増益となった主要因に
- メタノール等、一部製品の市況は不安定な状況にあり、第2四半期以降、販売価格下落による損益悪化が懸念される

グリーン・エネルギー &ケミカル	メタノール及び誘導品	● 引き続きサウジアラビア拠点からのメタノール輸送に制約が生じているが、他拠点品の融通等により対応中。調達コストの増加は、市況上昇分と合わせて価格転嫁を実施 ● 誘導品原料であるメタノール、アンモニア価格は上昇しているが、販売価格への転嫁で対応
	キシレン分離及び誘導品 (含むMXDA系製品)	● 原料キシレン価格の上昇に対して、販売価格への転嫁を進めている
機能化学品	無機化学品/光学材料/ 電子材料	● 中東情勢影響による製造コスト上昇はいずれも限定的
	エンジニアリングプラス チックス	● 主原料であるBPA/メタノール価格の上昇に対して、販売価格への転嫁を進めている

続きまして、中東情勢の影響についてですが、メタノールのサウジアラビア拠点を除いて、特段生産・販売への影響は生じておらず、また、製造コストは上昇傾向ではありますが、価格転嫁により対応を進めております。

記載の内容は後ほど、ご参照願います。

1 | 2026年度 第1四半期実績 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 2026年度 業績予想

ここからは決算の内容について、
「2026年度 第1四半期実績 決算概要」
次に、「セグメント別 業績概要」、
最後に「2026年度 業績予想」という順でご説明いたします。

1 | 2026年度 第1四半期実績 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 2026年度 業績予想

まず、第1四半期実績 決算概要についてご説明します。

2026年度 第1四半期 業績サマリー



- 売上高：中東情勢緊迫化に伴うメタノール市況上昇、電子材料の好調な販売に加え、円安の影響等により増収
- 営業利益：上記に加え、メタノール、エンジニアリングプラスチックス等での在庫受払差等の影響により増益
- 経常利益：メタノールのサウジアラビア拠点での稼働低下等により持分法損益は悪化したものの、営業利益の増加などにより増益

単位:億円	2025年度 1Q	2026年度 1Q	増 減	
			金額	%
売上高	1,779	2,237	+457	+25.7
営業利益	109	278	+168	+153.5
持分法利益	23	5	▲18	▲78.1
経常利益	138	291	+153	+111.0
親会社株主に帰属する四半期純利益	84	183	+99	+118.1
一株当たり四半期純利益(円/株)	43.17	94.02		
為替レート(JPY/USD)	145	160		

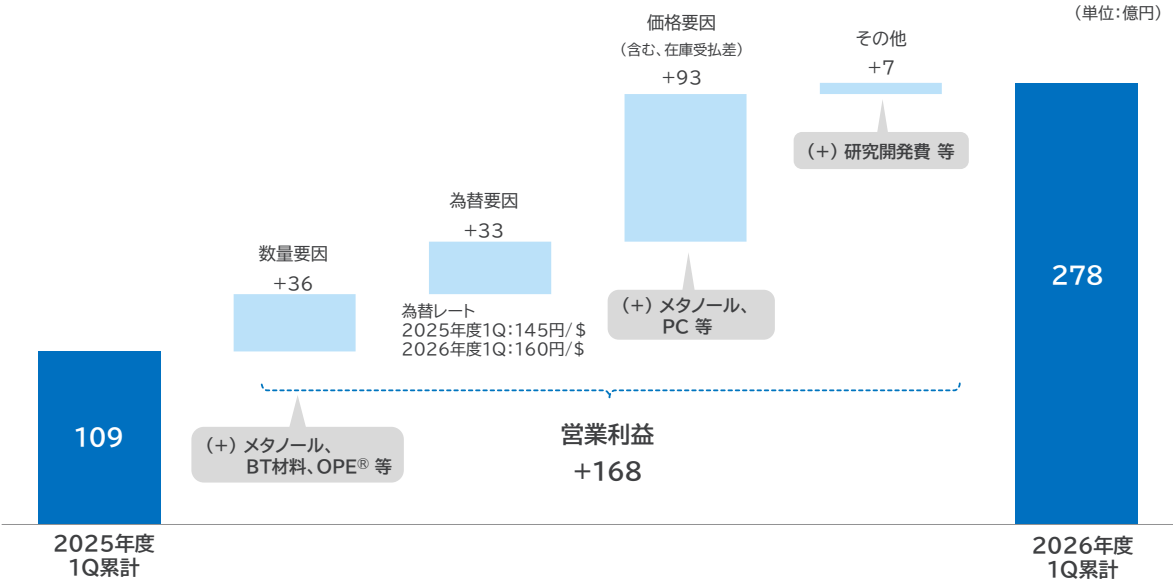
※ 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

6ページをご覧ください。
第1四半期業績の サマリーを示しております。

売上高は、中東情勢緊迫化に伴うメタノール市況上昇と電子材料の好調な販売に加え、円安の影響等により、457億円増収の2,237億円となりました。

営業利益は、上記に加え、メタノール・エンジニアリングプラスチックスでの在庫受払差等の影響により増益となり、168億円増益の278億円となりました。

経常利益は、メタノールのサウジアラビア拠点での稼働低下等により持分法損益は悪化したものの、営業利益の増加等により増益となり、153億円増益の291億円となりました。



7ページは、営業利益の増減要因を前年度との比較で示しております。

数量要因は、メタノールやBT材料、OPEの販売数量の増加、価格要因は、メタノールやPCの販売価格の上昇、在庫受払差などが大きく効いています。

その他要因には、前年度に計上した減損損失に伴う償却費の減少などが含まれております。

1 | 2026年度 第1四半期実績 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 2026年度 業績予想

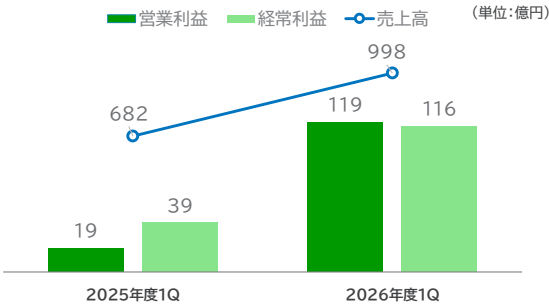
続いて、セグメント別業績概要をご説明します。

2026年度1Q実績

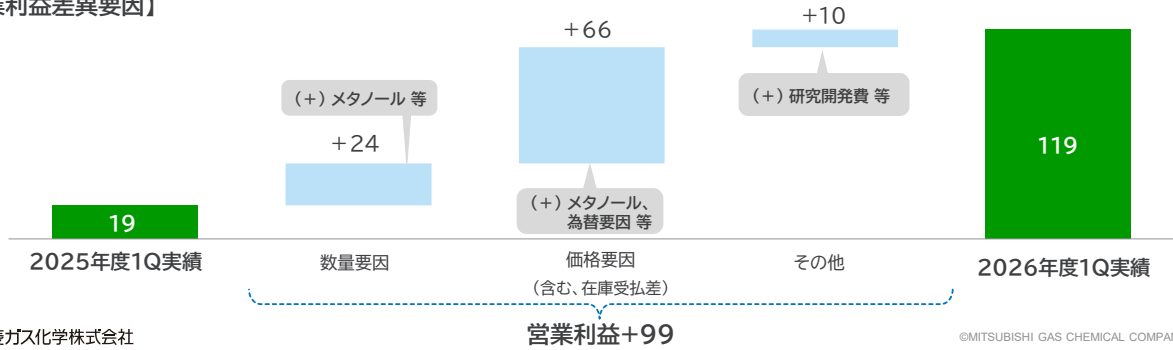
売上高:
メタノールの市況上昇や原材料コスト上昇分の価格転嫁、円安等により増収

営業利益:
上記に加え、メタノール及びその誘導品やキシレン分離における在庫受払差等の影響により増益

経常利益:
メタノールのサウジアラビア拠点での稼働低下などにより持分法損益は悪化したものの、営業利益の増加により増益



【営業利益差異要因】



9ページでは、GEC事業についてご説明いたします。

第1四半期実績につきましては、
売上高は中東情勢緊迫化に伴うメタノール市況上昇や、原材料コスト上昇分の価格転嫁、円安等により増収となりました。
営業利益は、上記に加え、メタノール及びその誘導品やキシレン分離における在庫受払差等の影響により増益となりました。
また経常利益につきましても、メタノールのサウジアラビア拠点での稼働低下などにより持分法損益は悪化したものの、営業利益の増加により増益となっております。

下段の滝グラフは、後ほどご参照願います。

単位:億円	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	増減
売上高	682	998	+ 315
天然ガス系化学品	498	792	+ 294
芳香族化学品	185	206	+ 21
調整	▲ 1	▲ 1	▲ 0
営業利益	19	119	+ 99
天然ガス系化学品	12	102	+ 89
芳香族化学品	6	16	+ 9
調整	0	0	▲ 0
経常利益	39	116	+ 77
天然ガス系化学品	30	89	+ 59
芳香族化学品	8	26	+ 17
調整	0	▲ 0	▲ 0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

		2026年度1Q実績 (2025年度1Q実績比)	
天然ガス系化学品	メタノール	➡	中東情勢緊迫化に伴う市況上昇に加え、在庫受払差等の影響により増収増益(前期314 ^{百万} 円/MT→今期530 ^{百万} 円/MT)
	メタノール・アンモニア系化学品	➡	原材料価格は上昇したものの、販売価格への転嫁が進んだことや、MMA系製品の販売数量増加などにより増収増益
	エネルギー資源・環境事業	➡	原油価格上昇により採算が改善し、増益
芳香族化学品	MXDA*、芳香族アルデヒド、ポリマー材料 * 誘導品含む	➡	需要回復により販売数量が増加したが、固定費の増加などにより前年同期並みの損益
	キシレン分離/誘導品	➡	高純度イソフタル酸(PIA)の市況上昇により採算が改善し、増益

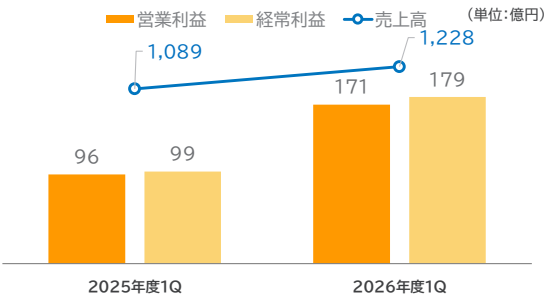
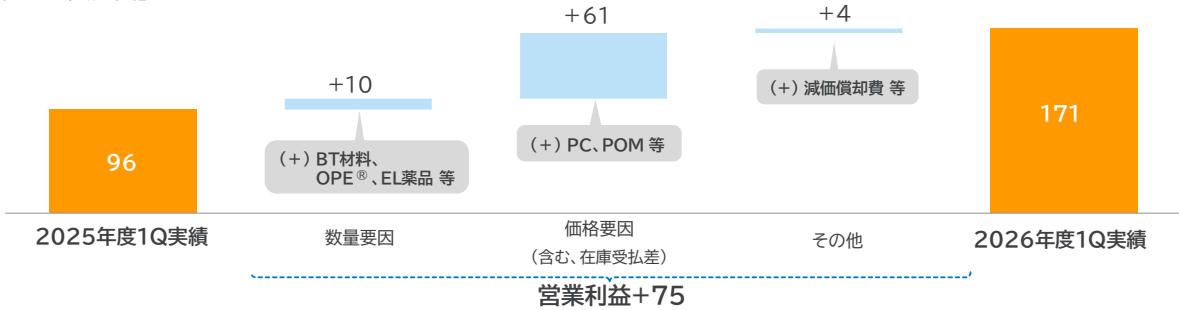
10ページでは、GECの業績動向を、主要事業別を示しております。
記載の内容は後ほど、ご参照願います。

2026年度1Q実績

売上高：
電子材料や半導体向け薬液の販売数量の増加に加え、エンジニアリングプラスチックにおける原材料コスト上昇の販売価格転嫁への取組み、円安等により増収

営業利益：
上記に加え、エンジニアリングプラスチックにおける在庫受払差等の影響での損益改善、前期計上した減損損失による償却費減少等もあり、増益

【営業利益差異要因】



続いて11ページ、機能化学品事業についてご説明します。

売上高は、電子材料や半導体向け薬液の販売数量の増加に加え、エンジニアリングプラスチックにおける原材料コスト上昇分の販売価格転嫁への取組み、円安等により増収となりました。

営業利益は、上記に加え、エンジニアリングプラスチックにおける在庫受払差等の影響での損益改善、前期計上した減損損失による償却費減少等もあり、増益となりました。

下段の滝グラフは、後ほどご参照願います。

単位:億円	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	増減
売上高	1,089	1,228	+ 139
機能化学品	869	956	+ 86
特殊機能材	219	272	+ 52
調整	▲ 0	▲ 0	+ 0
営業利益	96	171	+ 75
機能化学品	51	102	+ 50
特殊機能材	44	69	+ 25
調整	0	▲ 0	▲ 0
経常利益	99	179	+ 79
機能化学品	47	105	+ 57
特殊機能材	52	73	+ 21
調整	0	▲ 0	▲ 0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

三菱ガス化学株式会社

		2026年度1Q実績 (2025年度1Q実績比)	
機能化学品	無機化学品		半導体向け薬液の需要回復に伴う販売数量増加に加え、前期末に計上した減損損失による償却費減少等により増収増益
	エンジニアリングプラスチック		原材料価格は上昇したものの、販売価格の転嫁に取り組んだ他、顧客の要請に対しタイムリーな供給を行ったことや在庫受払差等の影響により、増収増益
	光学材料		光学樹脂ポリマーの主用途であるスマートフォン向けの販売は堅調に推移したものの、眼鏡向けレンズモノマーの生産トラブルの影響などにより増収減益
特殊機能材	電子材料		半導体パッケージ用BT材料において、幅広い分野で力強い需要が継続したこと、また、AIサーバー向け基板材料OPE®において販売数量が増加したことなどから増収増益
	生活衛生ソリューションズ		脱酸素剤において輸出数量増加等により増収増益

12ページでは、機能化学品の業績動向を、主要事業別に示しております。
記載の内容は後ほど、ご参照願います。

1 | 2026年度 第1四半期実績 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 2026年度 業績予想

最後に、業績予想についてご説明します。

2026年度 業績予想



- 上期予想: 前回予想*1比で売上高+200億円、営業利益+130億円、経常利益+150億円
- 下期予想: 売上高は前回予想を据え置き*2、営業利益▲10億円、経常利益▲20億円

*1 2026年5月13日公表 *2 前回予想を据え置いた項目においても、事業毎、セグメント毎の見直しは実施

2026年度上期				2026年度下期			2026年度通期		
単位:億円	前回予想	今回予想	差異	前回予想	今回予想	差異	前回予想	今回予想	差異
売上高	4,200	4,400	+200	4,200	4,200	-	8,400	8,600	+200
営業利益	280	410	+130	310	300	▲10	590	710	+120
持分法利益	37	34	▲2	69	64	▲5	106	98	▲8
経常利益	310	460	+150	350	330	▲20	660	790	+130
親会社株主に帰属する当期純利益	200	310	+110	260	240	▲20	460	550	+90

【2026年度上期】
・メタノール及びその誘導品やキシレン分離誘導品、エンプラ等幅広い製品において、中東情勢緊迫化を背景とした市況上昇や原材料コスト上昇分の価格転嫁、一時的な需要増、在庫受払差等の影響が想定以上に生じたこと、またBT材料はメモリ向け需要が好調に推移したこと等により前回予想比で増収増益を見込む
【2026年度下期】
・PCの海外拠点における定修時期のずれ込み(上期→下期)、レンズモノマー既存プラントの上期トラブル影響による一時的なコスト増加により減益を見込む

14ページをご覧ください。
2026年度の上期、下期、通期業績予想の概要を示しております。

2026年度上期予想は前回予想より売上高・各段階利益を上方修正しております。
メタノール及びその誘導品や、エンプラ等幅広い製品において、中東情勢影響での市況上昇や原材料コスト上昇分の価格転嫁、一時的な需要増、在庫受払差等の影響が想定以上に生じたことや、BT材料においてメモリ向け需要が好調に推移したこと等により前回予想比で増収増益を見込んでおります。

下期予想は、前回予想より売上高は据え置き、各段階利益を下方修正しております。
PCの海外拠点における定修時期のずれ込み、レンズモノマー既存プラントのトラブル影響による一時的なコスト増加などにより減益を予想しております。

第2四半期の見通しと、下期業績のポイントにつきましては
この後のスライドにてご説明いたします。

2026年度 第2四半期の見通し(対第1四半期実績)



単位:億円	2026年度 1Q実績	2026年度 2Q予想	増 減	
			金額	%
売上高	2,237	2,162	▲74	▲3.3
営業利益	278	131	▲146	▲52.8
持分法利益	5	29	+24	+476.2
経常利益	291	168	▲123	▲42.4
親会社株主に帰属する四半期純利益	183	126	▲56	▲30.9

- 【グリーン・エネルギー&ケミカル(GEC)】
- メタノール:市況は369ドル/MTを予想(1Q 530ドル/MT)。市況下落及び在庫受払差等の反動により減益を見込む
 - 資源/環境:電力事業におけるスプレッド悪化やヨウ素生産量減少による減益を見込む
 - MXDA・芳香族アルデヒド:1Q同様に緩やかな需要回復を見込むほか、MXDAオランダ拠点の整理が進み2Qは固定費減少
 - キシレン分離誘導品:中東情勢緊迫化の影響により1Qは市況上昇も、2Qは市況下落及び在庫受払差等の反動により減益を見込む
- 【機能化学品】
- 無機化学品:EL薬品(半導体向け薬液)の販売は回復傾向が続き、1Q並みの損益を見込む
 - エンプラ(PC・POM):中東情勢緊迫化の影響により1Qは一時的な需要増や在庫受払差等の影響による損益改善があったが、2Qは当該要因の解消や定修による固定費増もあり減益を見込む
 - 光学樹脂ポリマー:スマートフォン向けの堅調な需要が継続する見通し
 - BT材料:1Qに続き販売好調が継続し、1Q並みの損益を見込む

15ページは、第2四半期の営業利益の見通しについて、第1四半期からの変化を中心に示しております。

上段の表に記載の通り、減収減益の予想としております。
その内訳を下段の囲みに記載しております。

まずGECについて

- メタノール:市況は369ドル/MTを予想(1Q 530ドル/MT)。大幅な市況下落及び在庫受払差等の反動により減益を見込んでおります。
- 資源/環境:電力事業におけるスプレッド悪化やヨウ素生産量減少による減益を予想しております。
- MXDA・芳香族アルデヒド:1Q同様に緩やかな需要回復を見込むほか、MXDAオランダ拠点の整理が進み2Qは固定費減少を予想しております。
- キシレン分離誘導品:中東情勢緊迫化の影響により1Qは市況上昇も、2Qは市況下落及び在庫受払差等の反動により減益を見込んでおります。

続いて機能化学品について

- 無機化学品:EL薬品の販売は回復傾向が続き、1Q並みの損益を見込んでおります。
- エンプラ(PC・POM):中東情勢緊迫化の影響により1Qは一時的な需要増や在庫受払差等の影響による損益改善がありましたが、2Qは当該要因の解消や定修による固定費増もあり減益を予想しております。
- 光学樹脂ポリマー:スマートフォン向けの堅調な需要が継続する見通しです。
- BT材料:1Qに続き販売好調が継続し、1Q並みの損益を見込んでおります。

【グリーン・エネルギー＆ケミカル(GEC)】

- メタノール:市況は345ドル/MTを予想(上期予想 450ドル/MT)
- メタノール・アンモニア系化学品:中東情勢緊迫化の影響により上期は市況上昇も、下期は市況下落及び定修により減益を見込む
- MXDA、芳香族アルデヒド:欧州でのインフラ老朽化対策に伴い、MXDA需要の回復を見込む
- エネルギー資源・環境:下期のみ発電用LNGの販売が予定されており、上期比増収を見込む
- 例年同様、第4四半期に水島工場での定修を予定

【機能化学品】

- 無機化学品:EL薬品は、各拠点において需要の回復が続く見通し
- エンプラ(PC・POM):上期に生じた在庫受払差等による損益改善の解消や、定修等による固定費増もあり減益を見込む
- 光学材料:スマホカメラの高機能化トレンドを受け、堅調な需要が続く見通し。レンズモノマーは、既存プラントのトラブル解消及び新プラントの稼働開始による販売数量増もあり損益改善を見込む
- BT材料:低熱膨張グレードを中心に引き続き高水準の販売を見込む

■為替前提(未経過月の平均):1ドル160円(前回予想より5円の円安)、1ユーロ185円(前回予想より5円の円安)
為替感応度(USD、概算):1円の円高(円安)で、営業利益5億円/年、経常利益4億円/年の減益(増益)

■原油価格前提(未経過月の平均):75ドル/bbl.(前回予想比9ドルの下落)
原油感応度(USD、概算):中東情勢緊迫を受け、改めて精査中
(※2025年度業績予想における感応度は、\$ 1/bbl.の上昇(下落)で、3億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず)

16ページでは、2026年度下期業績予想のポイントをお示ししております。

GECについて

メタノール:市況は345ドル/MTを予想しております。(上期予想 450ドル/MT)

メタノール・アンモニア系化学品:中東情勢緊迫化の影響により上期は市況上昇も、下期は市況下落及び定修により減益を見込んでおります。

MXDA、芳香族アルデヒド:欧州でのインフラ老朽化対策に伴い、MXDA需要の回復を見込んでおりますが、引き続き厳しい状況が続くと見ております。

エネルギー資源・環境:下期のみ発電用LNGの販売が予定されており、上期比増収を予想しております。

また、例年同様、第4四半期に水島工場での定修を予定しております。

続いて、機能化学品ですが、

無機化学品:EL薬品は、各拠点において需要の回復が続く見通しです。

エンプラ(PC・POM):上期に生じた在庫受払差等による損益改善の解消や、定修等による固定費増もあり減益を見込んでおります。

光学材料:スマホカメラの高機能化トレンドを受け、堅調な需要が続く見通し。レンズモノマーは、既存プラントのトラブル解消および新プラントの稼働開始による販売数量増もあり損益改善を見込んでおります。

BT材料:低熱膨張グレードを中心に引き続き高水準の販売を見込んでおります。

なお、2Q以降の為替前提は、1ドル160円、1ユーロ185円としており、いずれも前回予想から5円の円安見通しとしております。

私からの説明は以上でございます。

Appendix

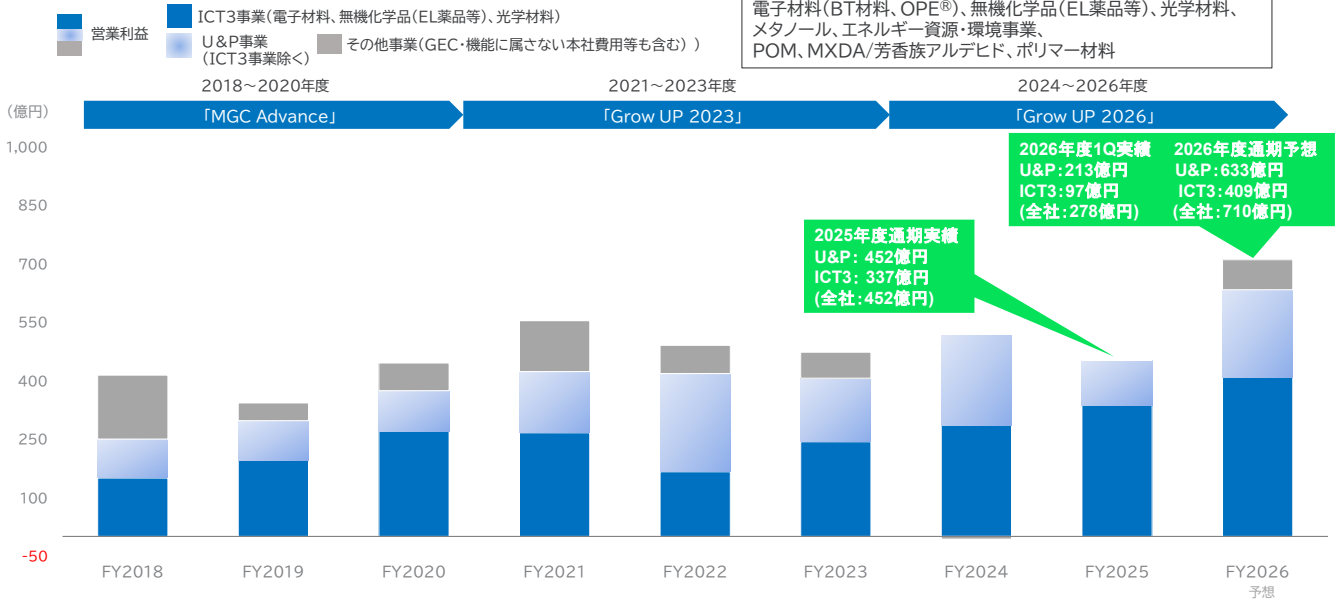
ICT3事業・U&P事業(Uniqueness & Presence)の営業利益推移



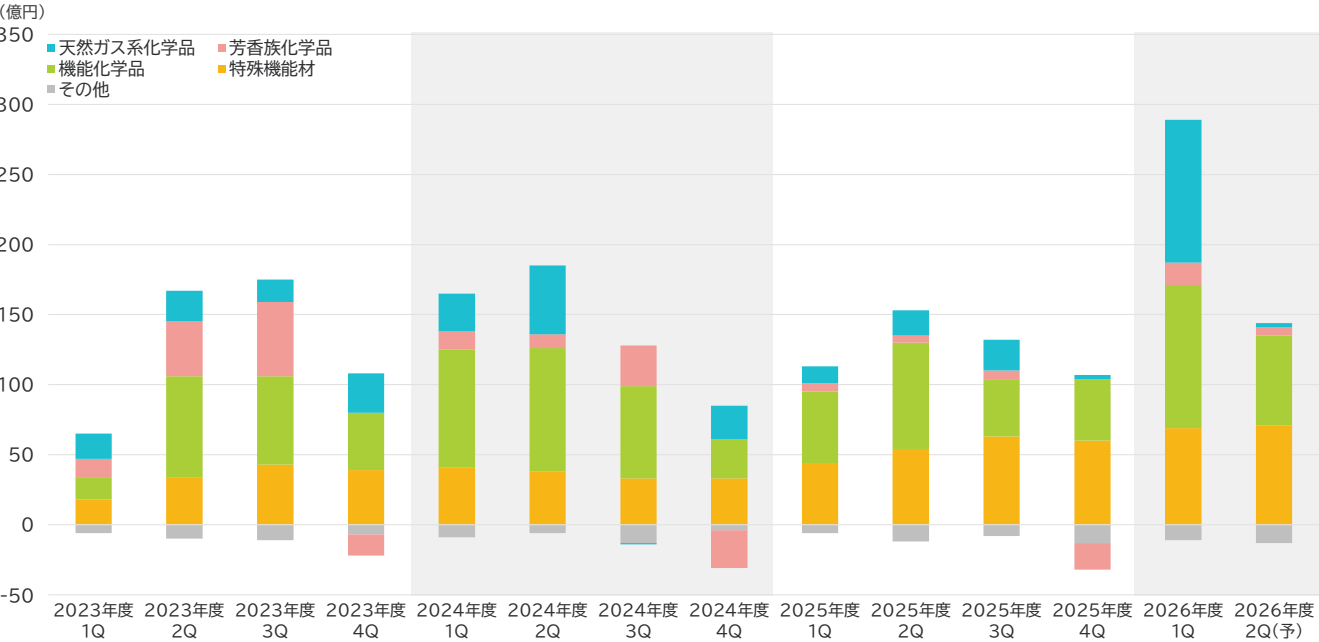
成長ドライバーであるICT3事業を中心に、現中計期間に再拡大

U&P事業:中計「GrowUP2026」において経営資源を優先的に配分すべきと評価した以下の事業

電子材料(BT材料、OPE®)、無機化学品(EL薬品等)、光学材料、メタノール、エネルギー資源・環境事業、POM、MXDA/芳香族アルデヒド、ポリマー材料



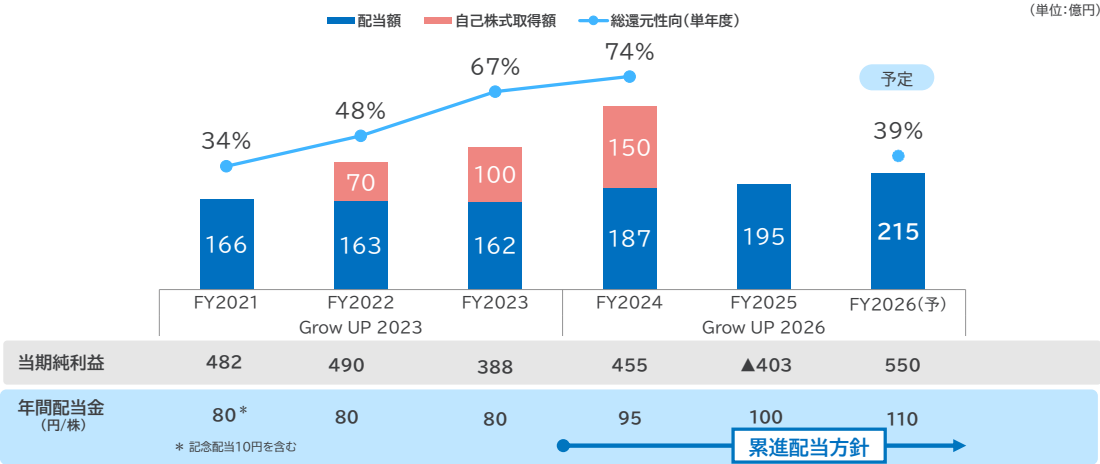
主要製品群別 営業利益推移



※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。
三菱ガス化学株式会社

- 現中計「Grow UP 2026」での還元方針は、累進配当方針、総還元性向 50%目安、DOE(自己資本配当率)目標値 3%
- 中計最終年度の2026年度も、上記方針に基づき年間10円の増配を予定。今後も積極的に株主還元に取り組んでいく

2026年度の年間配当金は110円を予定(普通配当ベースで年間10円の増配)



セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2025年度(実績)			2026年度(前回予想)*			2026年度(今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,616	3,765	7,382	4,200	4,200	8,400	4,400	4,200	8,600
GEC	1,411	1,458	2,869	1,789	1,745	3,534	1,918	1,681	3,599
機能化学品	2,199	2,284	4,483	2,382	2,436	4,819	2,474	2,498	4,972
全社/調整	6	23	29	28	18	46	7	19	27
営業利益	251	201	452	280	310	590	410	300	710
GEC	43	12	56	65	57	123	128	53	181
機能化学品	227	210	438	241	276	517	307	270	578
全社/調整	▲ 19	▲ 22	▲ 41	▲ 27	▲ 23	▲ 51	▲ 26	▲ 23	▲ 49
経常利益	314	204	519	310	350	660	460	330	790
GEC	62	▲ 23	38	80	97	177	147	81	228
機能化学品	260	230	491	249	276	526	326	270	597
全社/調整	▲ 7	▲ 2	▲ 10	▲ 19	▲ 23	▲ 43	▲ 14	▲ 21	▲ 36

* 2026年5月13日公表

セグメント別 2025年度及び2026年度 四半期別推移



単位:億円	2025年度実績				2026年度(実績/今回予想)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q(予)
売上高	1,779	1,837	1,877	1,887	2,237	2,162
GEC	682	728	755	702	998	920
機能化学品	1,089	1,110	1,120	1,163	1,228	1,245
全社/調整	8	▲ 1	2	21	10	▲ 2
営業利益	109	141	126	74	278	131
GEC	19	23	29	▲ 16	119	9
機能化学品	96	130	105	104	171	135
全社/調整	▲ 6	▲ 12	▲ 8	▲ 13	▲ 12	▲ 13
経常利益	138	176	166	37	291	168
GEC	39	23	31	▲ 55	116	31
機能化学品	99	160	126	104	179	147
全社/調整	▲ 0	▲ 7	9	▲ 11	▲ 3	▲ 10

主要製品群別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2025年度(実績)			2026年度(前回予想)*			2026年度(今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,616	3,765	7,382	4,200	4,200	8,400	4,400	4,200	8,600
天然ガス系化学品	1,045	1,089	2,135	1,383	1,317	2,700	1,508	1,268	2,776
芳香族化学品	368	370	738	407	429	837	412	415	828
機能化学品	1,740	1,768	3,508	1,846	1,861	3,707	1,908	1,922	3,830
特殊機能材	459	516	975	536	575	1,112	565	576	1,141
全社/調整	3	20	24	28	18	46	4	17	22
営業利益	251	201	452	280	310	590	410	300	710
天然ガス系化学品	30	26	57	41	49	90	105	47	153
芳香族化学品	12	▲ 13	▲ 0	23	8	31	22	5	28
機能化学品	127	86	213	115	140	255	166	124	291
特殊機能材	99	124	224	126	136	262	140	146	287
全社/調整	▲ 19	▲ 21	▲ 41	▲ 27	▲ 23	▲ 50	▲ 26	▲ 23	▲ 49
経常利益	314	204	519	310	350	660	460	330	790
天然ガス系化学品	40	▲ 23	16	50	90	140	100	78	178
芳香族化学品	22	▲ 0	22	29	7	36	47	2	50
機能化学品	147	93	241	118	135	253	181	120	302
特殊機能材	112	136	249	131	141	272	144	150	295
全社/調整	▲ 7	▲ 2	▲ 10	▲ 19	▲ 23	▲ 43	▲ 14	▲ 21	▲ 36

※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

* 2026年5月13日公表

主要製品群別 2025年度及び2026年度 四半期別推移



単位:億円	2025年度実績				2026年度(実績/今回予想)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q(予)
売上高	1,779	1,837	1,877	1,887	2,237	2,162
天然ガス系化学品	498	546	567	522	792	715
芳香族化学品	185	183	188	182	206	206
機能化学品	869	870	860	907	956	952
特殊機能材	219	239	260	255	272	293
全社/調整	6	▲ 3	0	19	9	▲ 4
営業利益	109	141	126	74	278	131
天然ガス系化学品	12	18	22	3	102	3
芳香族化学品	6	5	6	▲ 19	16	6
機能化学品	51	76	41	44	102	64
特殊機能材	44	54	63	60	69	71
全社/調整	▲ 6	▲ 12	▲ 8	▲ 13	▲ 12	▲ 13
経常利益	138	176	166	37	291	168
天然ガス系化学品	30	10	13	▲ 37	89	10
芳香族化学品	8	13	17	▲ 18	26	20
機能化学品	47	100	48	45	105	76
特殊機能材	52	60	77	59	73	71
全社/調整	▲ 0	▲ 7	9	▲ 11	▲ 3	▲ 10

※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

2026年度 第1四半期 貸借対照表



単位:億円	2026年3月末	2026年6月末	増 減
流動資産	4,504	4,836	+ 331
現預金	689	665	▲ 24
売掛債権	1,495	1,665	+ 169
棚卸資産	2,069	2,226	+ 157
その他	249	279	+ 29
固定資産	6,625	6,755	+ 130
有形固定資産	3,343	3,395	+ 52
無形固定資産	235	231	▲ 4
投資その他の資産	3,046	3,129	+ 82
資産合計	11,130	11,592	+ 461

単位:億円	2026年3月末	2026年6月末	増 減
負債	4,334	4,603	+ 268
買掛債務	919	1,034	+ 115
有利子負債	2,292	2,489	+ 197
その他	1,122	1,079	▲ 43
純資産	6,795	6,988	+ 192
株主資本	5,412	5,521	+ 108
その他包括利益累計額	1,051	1,135	+ 84
非支配株主持分	331	330	▲ 0
負債・純資産合計	11,130	11,592	+ 461

自己資本比率 57.4% (2026年6月末時点)

各種指標（1）



単位:億円	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (予)
設備投資額 [1Q]	309 [61]	392 [91]	423 [115]	402 [87]	547 [115]	646 [153]	817 [183]	887 [177]	719 [162]	610 [134]
減価償却費 [1Q]	270 [64]	274 [67]	295 [71]	306 [75]	319 [78]	335 [79]	363 [91]	346 [82]	382 [92]	400 [93]
研究開発費 [1Q]	189 [45]	186 [45]	196 [45]	199 [47]	210 [49]	235 [55]	256 [62]	261 [62]	266 [69]	310 [61]
年度末人員(人)	8,009	8,276	8,954	8,998	9,888	10,050	7,918	8,146	8,319	8,450
EBITDA*1	1,088	976	616	817	1,070	1,050	849	973	928	1,228
U&P事業 営業利益	314	250	297	374	423	418	406	515	452	633
ROE(自己資本当期利益率)(%)	13.6	11.3	4.3	7.1	8.8	8.3	6.1	6.9	-	8.3
ROIC(投下資本利益率)*2(%)	12.1	9.5	3.6	6.2	7.4	6.4	3.3	6.4	3.2	6.6
売上高営業利益率(%)	9.9	6.4	5.6	7.5	7.8	6.3	5.8	6.6	6.1	8.3
一株当たり当期純利益 (円/株)	281.39	257.46	100.50	173.41	232.15	239.08	190.97	228.93	▲207.04	282.04
一株当たり配当金(円/株) [うち中間配当]	59.00 [24.00]	70.00 [35.00]	70.00 [35.00]	70.00 [35.00]	80.00*3 [45.00*3]	80.00 [40.00]	80.00 [40.00]	95.00 [45.00]	100.00 [50.00]	110.00 [55.00]
総還元性向 (%)	32.5	27.2	111.4	40.4	34.5	47.9	67.5	74.1	-	39.0

*1 EBITDA=経常利益+減価償却費+支払利息 *2 ROIC=(営業利益-法人税等+持分法損益)/投下資本 *3 記念配当10円を含む

各種指標（2）



	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期予想	下期予想
為替(JPY/USD)	134	137	141	148	153	152	146	156	160	160
為替(JPY/EUR)	139	143	153	160	166	162	168	182	185	185
原油価格(Dubai) (USD/bbl.)	102	83	82	82	82	75	69	75	87	73
メタノール (USD/MT) アジアスポット平均価格	375	351	297	324	333	335	309	324	450	345
原料キシレン(USD/MT)	1,105	925	960	910	885	750	695	770	940	790
ビスフェノールA (USD/MT)*	1,450 ~2,200	1,250 ~1,700	1,150 ~1,400	1,250 ~1,350	1,250 ~1,350	1,200 ~1,350	1,100 ~1,250	1,050 ~1,700	1,250 ~1,750	1,150 ~1,400
ポリカーボネート (USD/MT)*	1,950 ~2,900	1,800 ~2,200	1,650 ~1,900	1,700 ~1,900	1,750 ~1,900	1,600 ~1,800	1,500 ~1,650	1,500 ~2,350	1,800 ~2,450	1,700 ~1,950

* 期間中の最小値及び最大値を記載

感応度(概算)

- 為替(USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益5億円/年、経常利益4億円/年の減益(増益)
- 為替(EUR) : 1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)
- 原油(Dubai) : 中東情勢緊迫を受け、改めて精査中 (※2025年度業績予想における感応度は、\$ 1/bbl.の上昇(下落)で、3億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず)
- メタノール : メタノール市況\$ 1/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

主要製品群別 連結 売上高・営業利益・経常利益長期推移



単位:億円		2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026(予)
全社	売上高	6,489	6,133	5,957	7,056	7,812	8,134	7,735	7,382	8,600
	営業利益	413	342	445	553	490	473	508	452	710
	経常利益	691	311	502	741	697	460	603	519	790
天然ガス系 化学品	売上高	1,883	1,637	1,582	2,262	2,471	2,155	2,329	2,135	2,776
	営業利益	33	1	9	97	88	85	100	57	153
	経常利益	226	▲57	26	140	201	0	155	16	178
芳香族化学品	売上高	2,117	2,011	1,834	2,028	2,357	2,006	912	738	828
	営業利益	146	111	117	160	98	91	26	▲0	28
	経常利益	139	104	116	160	103	101	49	22	50
機能化学品	売上高	2,057	2,020	2,074	2,141	2,489	3,452	3,706	3,508	3,830
	営業利益	212	199	228	174	241	194	266	213	291
	経常利益	282	223	255	276	281	234	279	241	302
特殊機能材	売上高	519	548	623	715	602	640	735	975	1,141
	営業利益	39	56	119	161	84	136	146	224	287
	経常利益	44	58	119	178	106	151	159	249	295

- 「伸びる」「勝てる」「サステナブル」の観点で優れ、社会的価値と経済的価値を両立して持続的に成長できる事業(差異化事業)を「Uniqueness & Presence事業」と定義
- Uniqueness & Presence(U&P)事業は当社全体の利益成長を牽引
- とりわけ、半導体関連製品(BT材料、超純過酸化水素)やスマホカメラ向けレンズ材料(光学樹脂ポリマー)といったICT3事業が成長ドライバー

Uniqueness & Presence事業

成長ドライバー ICT3事業 (半導体・スマホ向け)	 BT材料(半導体パッケージ基板材料) 世界シェア 1位	 超純過酸化水素(半導体洗浄液) 世界シェア 1位	 光学樹脂ポリマー 世界シェア 1位*1
--	--	---	---

 ポリアセタール(POM) 世界シェア 3位	 メタノール 生産能力 世界3位*2	 メタキシレンジアミン(MXDA) 世界シェア 1位	 MXナイロン 世界シェア 1位	 芳香族アルデヒド 世界シェア 1位
---	--	--	---	--

報告セグメント	主要製品群	主要製品
グリーン・エネルギー & ケミカル	天然ガス系 化学品	・メタノール ・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、MMA系製品、ホルマリン・ ポリオール系製品等) ・エネルギー資源・環境事業
	芳香族 化学品	・MXDA、芳香族アルデヒド、ポリマー材料(MXナイロン等) ・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸 (PIA)等)
機能化学品	機能化学品	・無機化学品(EL薬品(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)、過酸化水素等) ・エンジニアリングプラスチック(ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等) ・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折率レンズモノマー等)
	特殊機能材	・電子材料(半導体パッケージ用BT材料、OPE [®] 等) ・生活衛生ソリューションズ製品(脱酸素剤:エージレス [®] 、環境衛生薬品:ダイヤパワー等)

- 2026年度第2四半期 決算発表
2026年11月10日(火) 15:30
- 2026年度第2四半期 アナリスト・機関投資家向け 決算説明会
2026年11月10日(火) 時間未定

※上記予定は都合により、予告なく変更となる可能性があります。

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
CSR・IR部 IRグループ

TEL 03-3283-5041

URL <https://www.mgc.co.jp/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。

